



# とうかい

第3号

広報誌  
公立学校共済組合  
**東海中央病院**

◆基本理念◆  
「最高の誠意」  
「最善の医療」

## 各務原市の救急医療について

医務局長 山内 品司

新緑の季節になり皆様お元気でお過ごしのことと思います。今回は、当院が行っている救急医療についてお話ししたいとおもいます。

当院は昭和61年に各務原市と救急医療についての協定を締結し、救急告示病院として救急医療を開始しています。現在では市内で発生する年間の救急患者約3000名のうち60%が当院へ救急車で運ばれ治療をうけています。ベッド数が332床と少ないため現在の受け入れは、ほぼ限界になっています。わが国で救急医療体制が整備され始めたのは昭和50年代で、現在でも告示病院と一次、二次、三次救急医療施設の二本立てで行われています。当院は各務原市の休日診療所に対する二次救急医療機関ですが同時に告示病院でもあるため、すべての救急患者を扱っています。医療スタッフとしては平成5年から医師の救急チームを編成し看護婦、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師が協力して24時間体制で救急医療を行っています。

当院では開業医の先生方との連携を円滑に行うよう努めています。通常の病気の場合はできるだけ開業医の先生に診ていただき、その中で入院が必要になったり診断が難しい場合は当院へ紹介していただき当該の診療科の専門医が診療に当たらせていただきます。入院を必要としない病気は一次医療機関すなわち開業医の先生の所で診療していただき、入院を必要とする場合は当院の様な二次医療中心の病院で治療を受けていただきます。救急患者はいつ発生するかわかりませんし、心筋梗塞のような重篤な疾患は直接、検査のできる病院へ運ばれた方が安全であり、通常の病気のように一次医療と二次医療を区別することが困難です。

皆様が買い物をする場合、日用品はスーパーマーケットで買い、特殊な品物は専門店のあるデパートで購入し、独身者は24時間営業のコンビニを利用したりして使い分けています。このことを病気に置き換えますと当院の機能としては二次医療を扱う専門医の集まるデパートと救急医療を行う24時間営業のコンビニの両方を行っていると言えます。この両者の機能を完全に遂行することはマンパワーの面や医療制度などの面で制約があり、いくつかの問題を抱えています。これらの問題点の多くは市の消防局の協力により改善されています。当院で研修を受けた救急救命士が現在5名、市内で活躍しています。高木氏を始めとし永井、林、浅野、横瀬の5氏は常に当院の救急チームと連絡をとり救急医療のレベルアップに貢献して下さっています。月に一回当院で搬送患者の症例検討会を救急チームと消防隊の間で行っています。

当院としては各務原市の市民病院的な役割を果たすべく努力していますが、今後市民の皆様からの要望や疑問があれば改善して行きたいと思っています。